

令和6年度 事業報告

1 事業の概要

令和7年3月北海道発表の最近の経済動向では、北海道の景気は「持ち直しの動きが続いている」状況ですが、個人消費については「改善の動きに足踏みがみられる」、雇用情勢については「持ち直しの動きに弱さがみられる」という景気動向であります。

社会経済活動は緩やかな回復を続け、賃金や雇用情勢等の改善が続く一方、インボイス制度による経費負担の増加、フリーランス法の施行や様々な制度の変化がある中、物価高の影響や新たな米国の関税政策などの不確定要素も加わり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

北海道内の雇用情勢については、有効求人倍率は0.96倍と前年を0.04ポイント下回り、完全失業率は2.6%と前年を0.1%減少している状況で、持ち直しの動きに弱さがみられ、物価上昇等が雇用に与える影響に留意する必要があります。そのような中で、当センターの派遣事業の契約額は、前年度の「7,841万円」を「78万円」上回る「7,919万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、前年度の「2億1,794万円」を「706万円」上回る「2億2,500万円」となり、請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億9,635万円」を2.64%上回り「3億0,419万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「993人」から「1,089人」と「96人」の増加となり、目標値である「1,011人」を上回りました。また、請負契約金額は、目標値「2億2,413万円」を「87万円」上回る「2億2,500万円」、派遣契約金額は、目標値「7,800万円」を「119万円」上回る「7,919万円」となり、請負と派遣を合わせた金額は、目標値「3億0,213万円」を「206万円」上回る「3億0,419万円」となりました。派遣就業延人日についても、目標値の「1,560人日」を「503人日」上回る「12,063人日」となりました。

以下、令和6年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

2 事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会を踏まえ、目標数を1,011人としていましたが、会員数は目標を78人上回る1,089人を達成しました。

年 度	目標数	会 員 数
令和元年度	779人	803人
令和2年度	809人	860人
令和3年度	855人	890人
令和4年度	904人	950人
令和5年度	956人	993人
令和6年度	1,011人	1,089人

- ① チラシの新聞折込を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携した就業体験入会説明会及び就業体験を実施し、15人の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図りましたが、退会会員は35人になりました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① 6月にJR駅周辺、9月に野幌総合運動公園の草取りボランティアを実施し環境美化に取り組みました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しをワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事業名	開催日	場 所	参加人数
草取りボランティア	6月	野幌駅周辺	34人
草取りボランティア	9月	野幌総合運動公園	31人

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和7年3月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
令和元年度	5,471件	43,308人日	20,701万円
令和2年度	5,260件	50,975人日	23,827万円
令和3年度	5,165件	48,661人日	22,497万円
令和4年度	4,698件	46,406人日	21,016万円
令和5年度	4,216件	46,360人日	21,794万円
令和6年度	4,224件	45,380人日	22,500万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ Smile to Smile の登録促進（令和7年3月31日末の登録者数516人）及びスマートフォンの利用に関する疑問や不安のある会員のためにスマートフォン講習会を9回（参加人数63人）開催しました。
- ④ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ⑤ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、派遣事業実績は増加し、就業延人数が目標値の11,560人日を503人日上回り、契約金額も前年度の7,841万円より78万円増加の7,919万円となりました。

(派遣事業実績)

令和7年3月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
令和元年度	71件	12,844人日	7,186万円
令和2年度	43件	10,446人日	6,213万円
令和3年度	56件	10,371人日	6,295万円
令和4年度	101件	11,367人日	7,304万円
令和5年度	99件	11,961人日	7,841万円
令和6年度	108件	12,063人日	7,919万円

- ① 市内民間企業や行政等への訪問によって、就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会確保に努めました。

(事業契約実績)

令和7年3月末現在

年度別	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
受託事業	22,500万円	21,794万円	21,016万円	22,497万円	23,827万円
派遣事業	7,919万円	7,841万円	7,304万円	6,295万円	6,213万円
合計	30,419万円	29,635万円	28,321万円	28,792万円	30,040万円

ウ 技術・接遇等の向上

会員のための視察研修会を開催したほか、刈払機の取扱や冬囲い、刃物研ぎなどの技能講習会を行いました。

講習会名	開催日	会場	参加人数
刈払機取扱作業講習	4月19日	センター研修室他	12人
剪定講習会	6月25日	センター研修室他	12人
冬囲い講習会	10月17日	見晴台公園	5人
S C 視察宿泊研修会	11月25～26日	富良野市 S C	18人
会員研修会	1月24日	センター研修室	35人
お掃除講習会	2月20日	センター研修室	22人
公共施設等就業者研修会	2月28日	センター研修室	17人
刃物研ぎ講習会	3月11日	センター研修室	12人
刃物研ぎ講習会	3月18日	センター研修室	14人
刃物研ぎ講習会	3月25日	緑町老人憩いの家	9人
刃物研ぎ講習会	3月27日	大麻老人憩いの家	10人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故7件、労災事故2件及び損害賠償事故1件が発生しました。なお、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。
令和6年度安全標語最優秀賞 「安全は 小さな気付きの 積みかさね」
- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和6年度事故概況

(傷害事故 7件)

(前年度 5件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	72	草集め作業	作業中に毛虫の棘に刺された
男	76	剪定作業	剪定する木のある草藪の中で、毛虫に棘に刺された
男	74	剪定作業	生垣の剪定中、生垣の中にいた毛虫の棘に刺された
男	74	剪定作業	作業中、庭のコンクリートブロックに乗った際に、ブロックが崩れ右足首を捻った
女	74	屋内清掃作業	通勤途中、歩道の凍結路面で転倒し、右手首を骨折
女	59	除雪作業	作業中に踏ん張った際に足を痛めた
女	79	屋内清掃作業	通勤途中、横断歩道の凍結路面で転倒し、右手首を骨折

(労災事故 2件)

(前年度 0件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	71	造園作業	作業中、スズメバチに右手人差し指を刺された
男	74	工場内作業	就業場所敷地内駐車場で転倒し、右上腕部を強打した

(賠償事故 1件)

(前年度 4件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	73	機械草刈作業	作業中、飛び石(砕石)により住宅の窓ガラス、外壁を破損した

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことは

シルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。

- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

デジタル化やインボイス制度などの業務量増に対応するため臨時職員を継続して雇用し、組織体制の維持に努めました。

年度別	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
正職員数	4人	4人	6人	6人	6人
臨時職員数	6人	6人	1人	1人	2人
業務補助員数	0人	0人	1人	1人	1人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令遵守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため北海道シルバー人材センター連合会の役員研修会に7人が出席しました。
- ③ さいたま市で開催された全国のシルバー人材センターの女性会員が集う「シルボヌ全国大会（主催：全国シルバー人材センター事業協会）」に役員と職員の3人を派遣しました。
- ④ コミュニティセンター、元町地区センター、野幌公民館、あさひが丘自治会館、大麻公民館の5会場で地区懇談会を開催しました。
- ⑤ パソコン等情報機器の更新により事務の効率化に努めました。

イ 財政の健全化

平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保され、令和6年度には運営費補助金にフリーランス事業補助が加算されました。

(補助金実績)

年度別	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
連合交付金	25,329千円	24,829千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円
市補助金	25,329千円	24,829千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円
村負担金	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円
合計	51,158千円	50,158千円	47,178千円	47,178千円	47,178千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の上昇及びインボイス制度に対応するため見積基準単価や事務費の改正を行いました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、新聞折込やチラシ配布等を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めたほか、隣接自治体である新篠津村と連携し、事業を進めました。